教育ガバナンスコース 2017 年度・2018 年度・2020 年度生への入学時調査から

大塚英理子・江島　徹郎*

1．はじめに

愛知教育大学教育学部教育支援専門職養成課程教育ガバナンスコース（以下、教育ガバナンスコース）は 2017 年度に新設され、2020 年度に完成年度を迎えた。教育ガバナンスコースは、学校や教育にかかわる業務を専門的見地から支援し、情報活用能力やグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力も習得した、教育機関などで活躍できる教育事務職員、教育にかかわる自治体職員などの育成を目指している[1]。

教育ガバナンスコースでは開設後、2017 年度、2018 年度、2020 年度の 3 度にわたり、新入生を対象に、愛知教育大学や教育ガバナンスコースを志望した動機、入試の評価についてのアンケート調査を行った。本稿は、このアンケート調査の結果を概観することにより、教育ガバナンスコースの学生の意識、そして今後の教育ガバナンスコースの運営にあたり配慮すべき点を明らかにすることを目的とする。

2．調査の概要

2017 年度および 2018 年度は 4 月に、1 年生の必修授業「初年次演習」のなかで質問紙による調査を実施した。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、前期はすべてオンライン授業、後期もオンライン授業と対面授業の併用となったため、11 月にインターネット調査を実施した。

調査では性別や出身のほか、以下の 3 領域について 5 件法で質問を行った。

（A1）本学（大学全体）の志望動機（10 項目）

（A2）本学教育ガバナンスコースの志望動機（12 項目）

（A3）入試について（6 項目）

2017 年度は 70 名中 68 名、2018 年度は 61 名中 61 名、2020 年度は 60 名中 51 名から回答を得た。

---

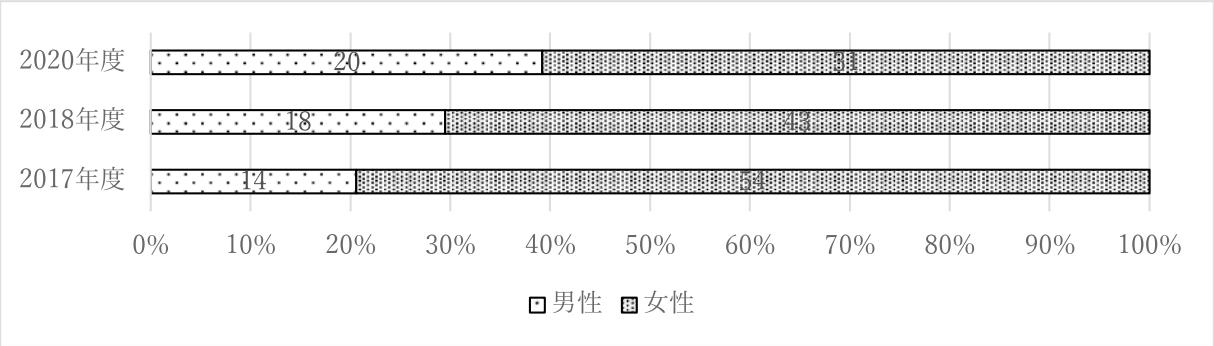
*愛知教育大学 教育ガバナンス講座

[1] 国立大学法人愛知教育大学「教育支援専門職養成課程 教育ガバナンスコース」（2021 年 1 月 29 日閲覧，https://www.aichi-edu.ac.jp/edu/gakubu/shien_governance.html）

3．調査の結果

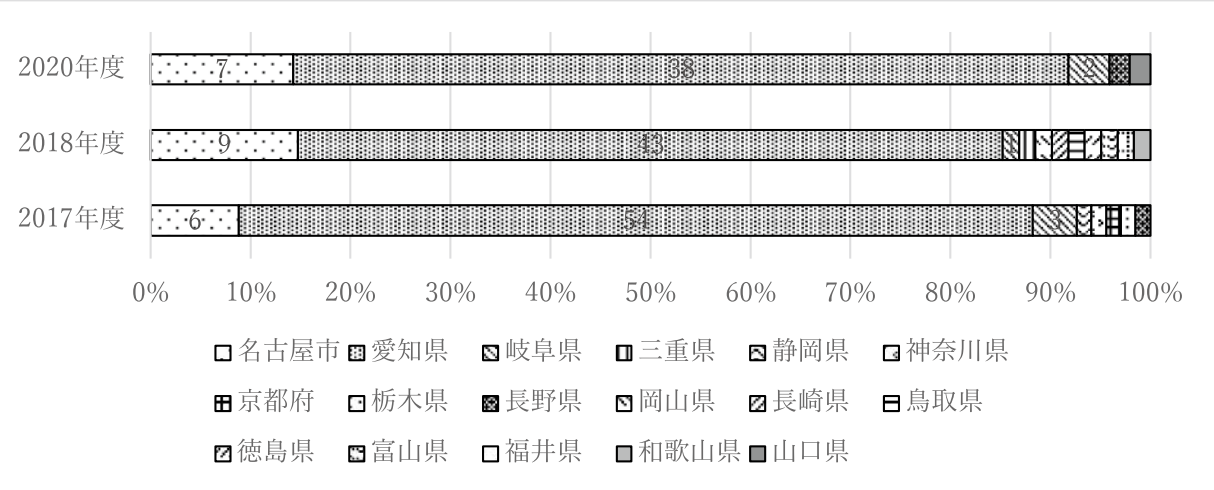
上記（A1）と（A2）に共通する 10 項目の質問については、回答にほとんど差はなかった。そのため本稿では、（A2）の結果を分析に用いることとする。また以下でパーセンテージを表記する際には、小数点以下を切り捨てている。

図 1　教育ガバナンスコース入学生の性別



いずれも女性が過半数を占めているが、年度が進むにつれ、男性の占める割合が増えている。

図 2　教育ガバナンスコース入学生の出身

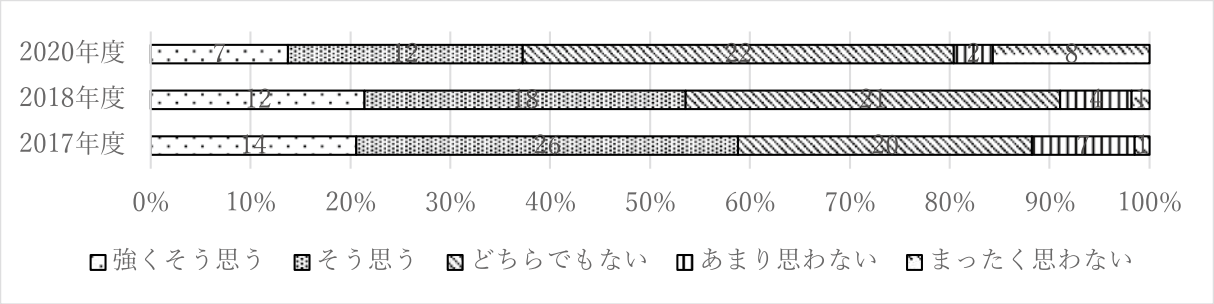


いずれの年度においても、教育ガバナンスコースの新入生の 85% 以上は愛知県（名古屋市含む）出身の者である。なお、名古屋市は政令指定都市であり、愛知県の人口の 30% を占める。しかし教育ガバナンスコースの新入生で愛知県出身の者のうち、名古屋市出身の者は 2020 年度においては 15% であり、愛知県全体での比率とは大きな開きがある。

なお、愛知県以外の都道府県をみると、2020 年度には岐阜県から 2 名、長野県と山口県から 1 名ずつ入学している。2018 年度は岐阜県、三重県、岡山県、長崎県、鳥取県、徳島県、富山県、福井県、和歌山県から 1 名ずつ、2017 年度は岐阜県から 3 名、静岡県、神奈川県、京都府、栃木県、長野県から 1 名ずつ入学していることと比べると、2020 年度は愛知県以外の都道府県からの入学者が減少している。

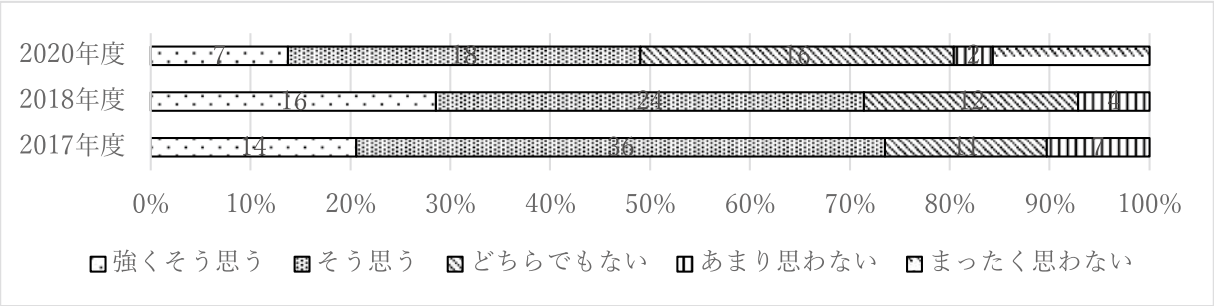
以下では、教育ガバナンスコースへの志望動機を概観する。

図３　志望動機「学校事務職に就きたいと思ったから」



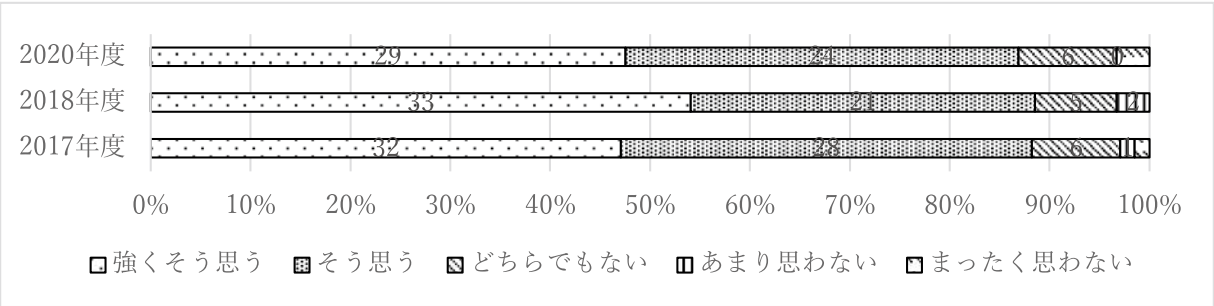
2017 年度・2018 年度は「学校事務職に就きたいと思ったから」教育ガバナンスコースを志望した者の割合が 50%を超えているが、2020 年度には 37%にまで減少した一方、教育ガバナンスコースの志望動機として「学校事務職に就きたいと」は「まったく思わない」者の割合が 2020 年度は大きく上昇している。

図４　志望動機「学校事務職に興味があるから」



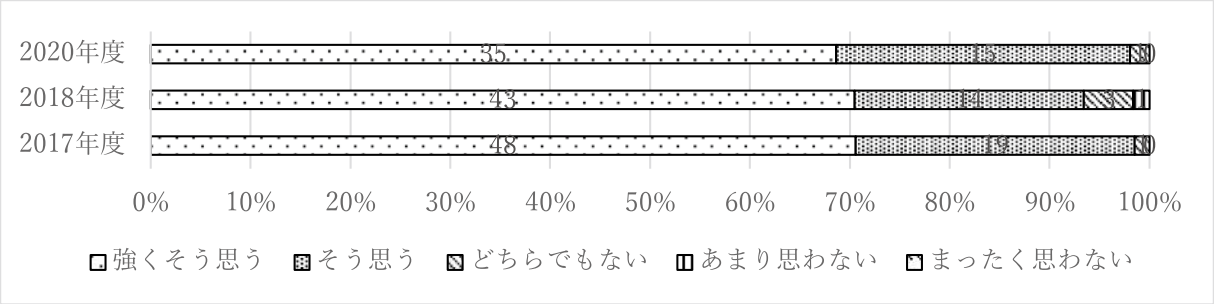
2020 年度は、教育ガバナンスコースを志望した動機として「学校事務職に興味がある」とは「まったく思わない」と回答した者の割合が 2017 年度・2018 年度と比較して上昇していると同時に、「学校事務職に興味があるから」教育ガバナンスコースを志望したと回答した者の割合が減少している。学校事務職に興味をもって教育ガバナンスコースを志望した者の割合は、2020 年度では 50%を下回っている。

図５　志望動機「愛知教育大学を知っていたから」



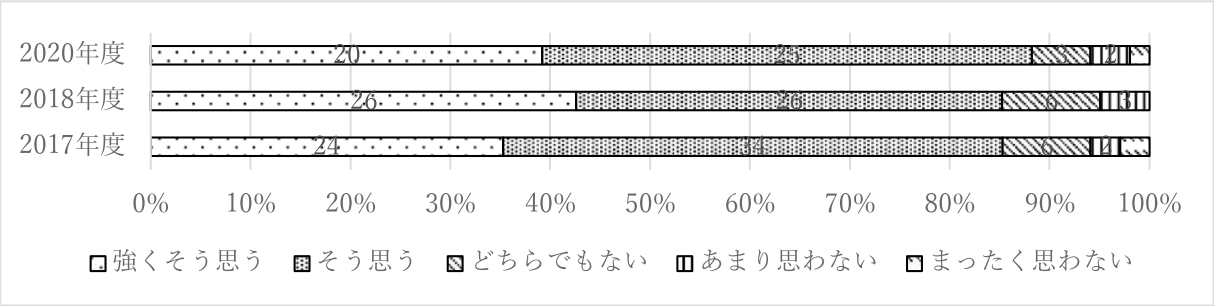
「愛知教育大学を知っていたから」教育ガバナンスコースを志望した者の割合は、いずれの年度においても 85%以上を占めている。

図６　志望動機「国立大学だから」



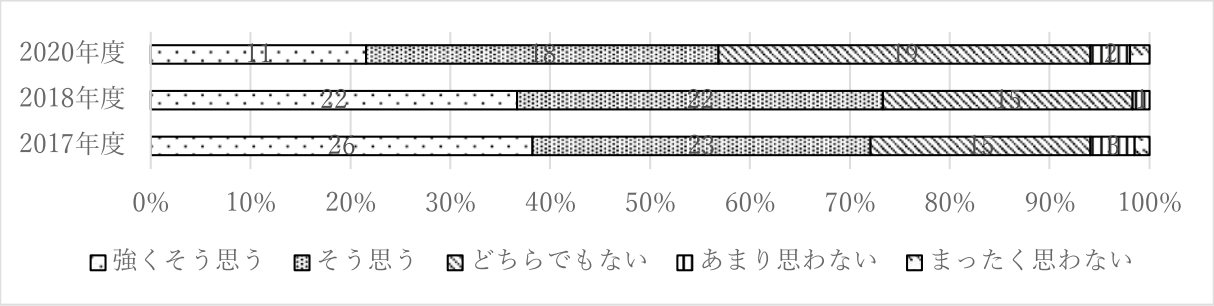
愛知教育大学が国立大学であることから教育ガバナンスコースを志望した者の割合は、いずれの年度においても 90%以上を占めている。

図７　志望動機「成績を考えて適切なところだったから」



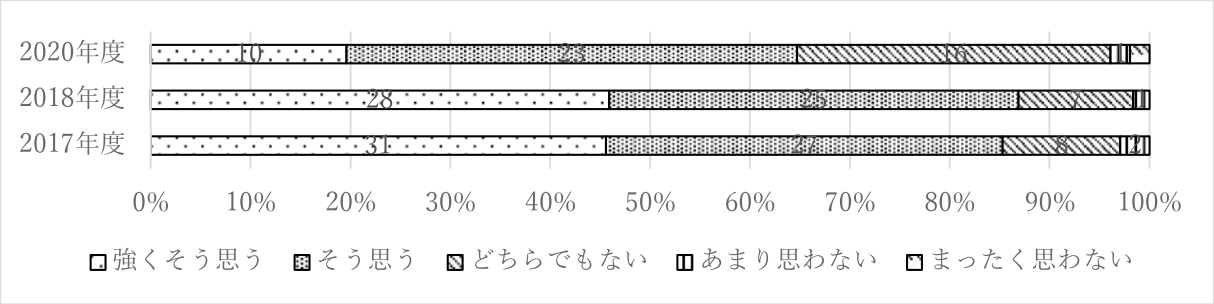
「成績を考えて適切なところだったから」教育ガバナンスコースを志望した者の割合は、いずれの年度においても 85%以上を占めている。

図８　志望動機「学びたいことが学べるから」



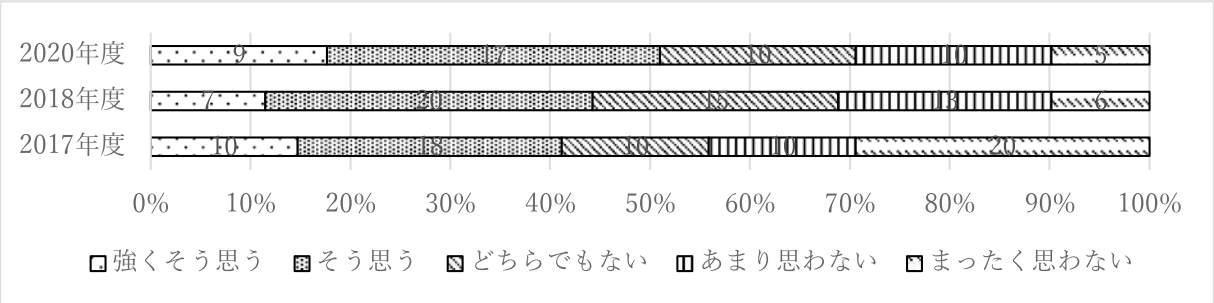
教育ガバナンスコースでは「学びたいことが学べるから」志望したと回答した者の割合は、2017 年度・2018 年度は 70%以上を占めていたが、2020 年度は 56%にまで減少している。

図 9　志望動機「将来の職業に役に立つと思ったから」



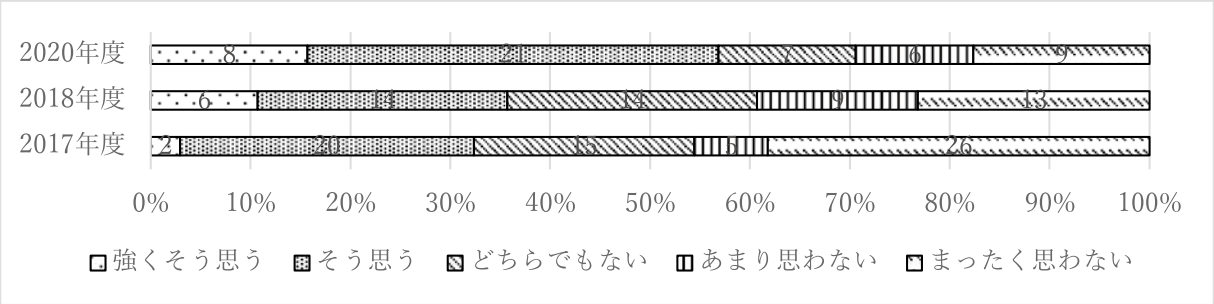
「将来の職業に役に立つと思ったから」教育ガバナンスコースを志望したと回答した者は、2017 年度・2018 年度は 80%を超えていたが、2020 年度は 64%であった。

図 10　志望動機「教師に勧められたから」



「教師に勧められたから」教育ガバナンスコースを志望したと回答した者は、いずれの年度においても 40%から 50%程度であった。その一方で、「まったく思わない」と回答した者は 2017 年度には 30%近くを占めていたが、2018 年度・2020 年度には 10%程度に減少した。

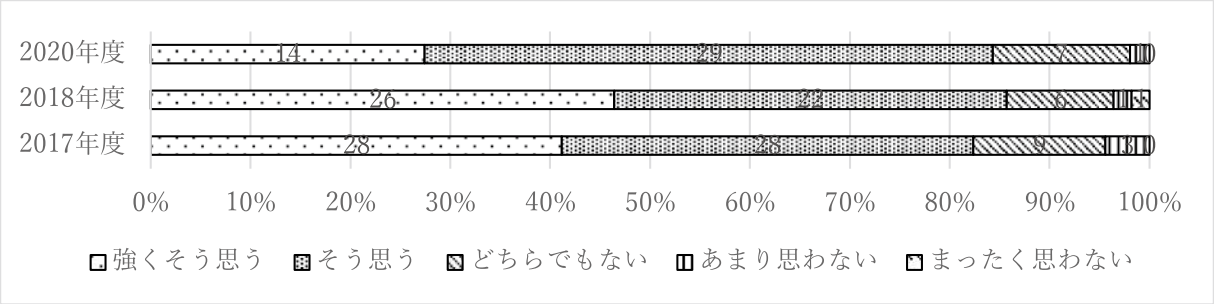
図 11　志望動機「保護者や親戚等に勧められたから」



2020 年度は「保護者や親戚等に勧められたから」教育ガバナンスコースを志望した者の割合が 56%となっており、2017 年度・2018 年度より増加している。

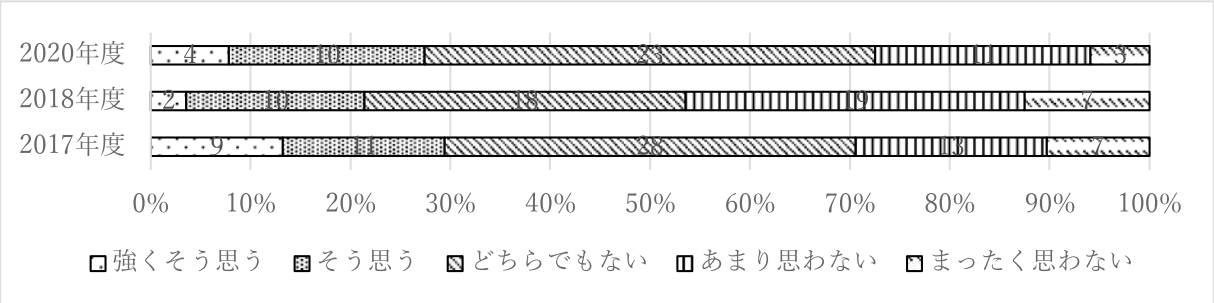
次に、入試についての回答結果をまとめる。

図 12 「よい勉強の機会となった」



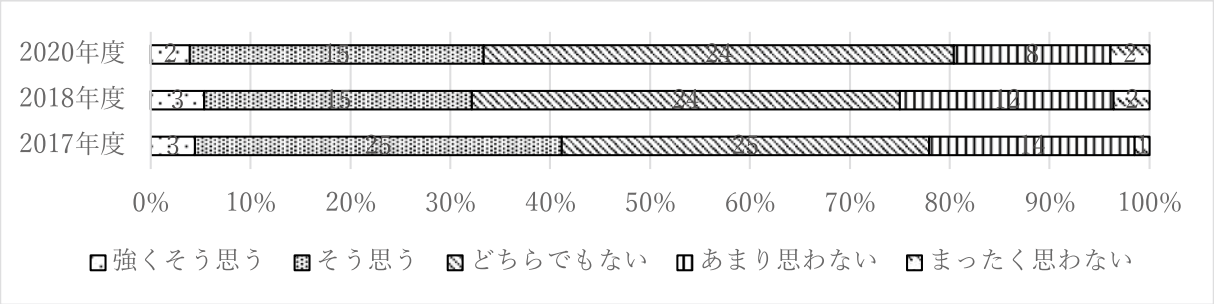
教育ガバナンスコースの入試は「よい勉強の機会となった」と考えている者の割合は、いずれの年度においても 80%を超えている。

図 13 「もう少し難しい大学に挑戦したかった」



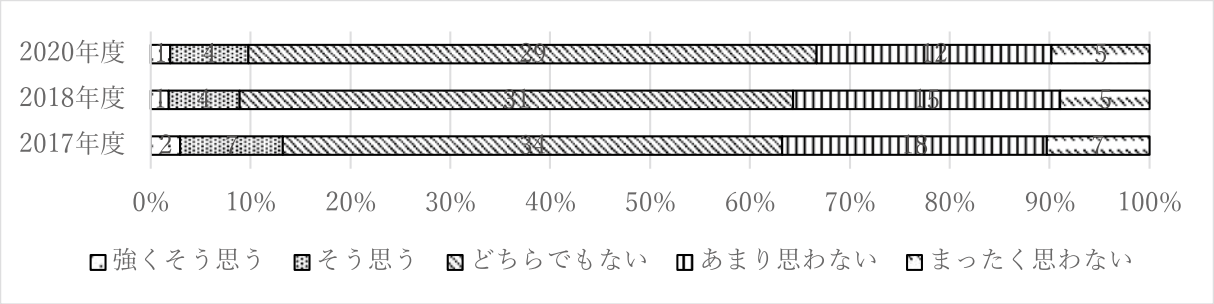
「もう少し難しい大学に挑戦したかった」と考えている者は、いずれの年度においても 20%から 30%存在している。

図 14 「入試は難しかった」



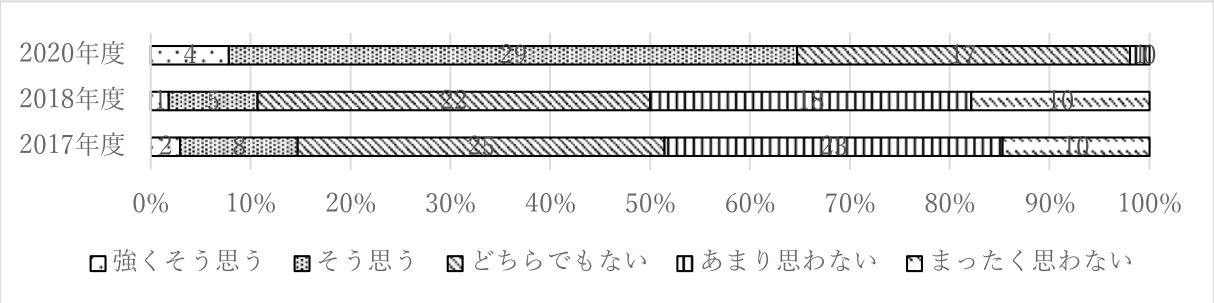
「入試は難しかった」と感じている者の割合は、2017 年度には 40%を超えていたが、2018 年度・2020 年度には減少している。

図 15 「多様な能力を評価して欲しかった」



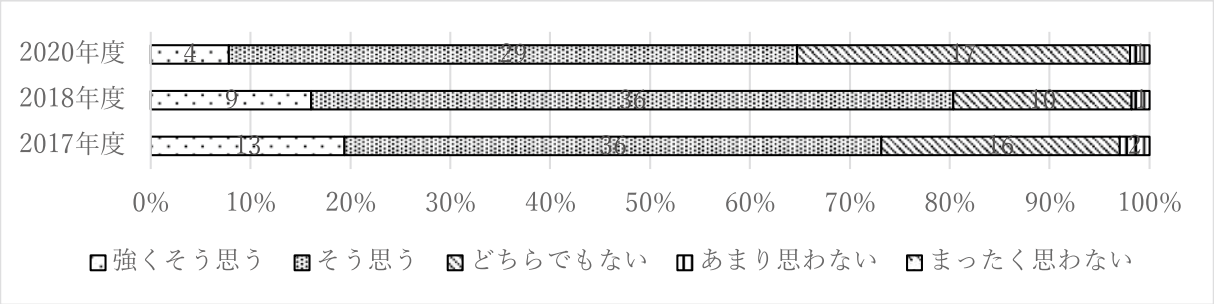
「多様な能力を評価して欲しかった」と感じている者の割合は、いずれの年度においても 10%程度である。

図 16 「もっと高校での活動を評価して欲しかった」



「もっと高校での活動を評価して欲しかった」と感じている者の割合は、2017 年度が 14%、2018 年度が 10%であったのに対し、2020 年度は 64%となっており、大幅に増加している。

図 17 「入試の内容は適切であった」



「入試の内容は適切であった」と感じている者の割合は、年度によってばらつきが存在する。2018 年度は「入試の内容は適切であった」と感じている者の割合は 80%を超えているが、2020 年度には 64%であった。

４．考察

以下では、アンケートの回答から明らかになった教育ガバナンスコースの学生の意識、今後の教育ガバナンスコースの運営のあり方について若干の考察を行う。

まず、学生の出身地について検討を行う。いずれの年度においても、教育ガバナンスコースの学生の 85% 以上は愛知県（名古屋市含む）出身の者である。そして名古屋市出身と名古屋市以外の愛知県出身を分けて見ると、名古屋市出身者は全体の 10％から 15％程度であり、愛知県の人口の 30％を名古屋市が占めることと比較すると、教育ガバナンスコースでは名古屋市出身者が相対的に少ないことが明らかである。これは、愛知教育大学の所在地、すなわち名古屋市を含む尾張地方と三河地方[2]の境界付近にはあるものの、三河地方に分類される刈谷市に大学が所在すること、また三河地方には教育や行政に関する学部等を擁する国公立大学がないことが関係していると思われる。さらに教育ガバナンスコースの学生の出身地の傾向としては、愛知県以外の都道府県からの入学者が非常に少ないことも挙げられる。東海地方[3]出身者で見ても、愛知県以外からは３年間で８人の入学者しかおらず、近隣県からの入学者も少ない現状にある。このように、愛知教育大学は地域で唯一の教育大学であり、教育ガバナンスコースは学校や教育にかかわる業務を専門的見地から支援する能力を備えた学生の育成を目指すという特色を有してはいるものの、地域の学校・教育を支援する拠点とはなり得ていないと評価せざるを得ない。今後は、まずは地域の教育支援の拠点を目指し、愛知県以外の都道府県での広報活動にも力を入れるべきであると考える。

次に、学生が愛知教育大学や教育ガバナンスコースを志望した動機について検討を行う。まず愛知教育大学の志望動機としては、愛知県出身者が多くを占める教育ガバナンスコースにおいては地元の国立大学であることが大きい（図２、図５、図６）。また教育ガバナンスコースを志望した動機については、学校事務職に就きたいと考えて入学してくる学生は、年を追うごとに徐々に減少している（図３、図４）。それだけではなく、「学びたいことが学べるから」、「将来の職業に役に立つと思ったから」志望したという学生の割合も 2020 年度は減少している（図８、図９）。2020 年度は、卒業後の進路との関係で教育ガバナンスコースを選んだ学生が減少した一方で、地元の国立大学であり、成績からも適切であると判断して（図７）教育ガバナンスコースを選んだ学生が多かったと言える。このように、受験生やその家族からすれば、地元であること（下宿が必要か否か）・国公立大学であること・現在の成績から考えて合格可能性が高いことを基準として出願先を決めることはよくあることであると思われる。こうした考え方が存在することを前提とすると、学生の将来の希望と教育ガバナンスコースで学べることのミスマッチが発生しないよう、教育ガバナンスコースの専門性や教育についてのポリシーを受験生や一般に向けて分かりやすく提示していく努力を怠ってはならない。

なお、学生の将来の希望という点に関しては、2017 年度・2018 年度生に対しては記述式のアンケート調査も実施しており、その分析結果からは、卒業後の進路としては公務員を志望している学生が多く存在している傾向が読み取れた[4]。2020 年度生の希望進路については、機会を改め

---

[2]愛知県は尾張地方と三河地方に区分されている。（愛知県「県内の市町村」（2021 年 1 月 29 日閲覧，https://www.pref.aichi.jp/site/userguide/link-citytown.html））

[3]本稿では、東海地方を構成する都道府県を愛知県、岐阜県、三重県、静岡県とする。

[4]江島徹郎・大塚英理子「『教育ガバナンスコース』2017 年度・2018 年度生の入学時の調査から」『教育ガバナンス研究』第 2 号，2019 年，6-8 頁

て調査を行い、把握に努める必要があろう。

続いて、「保護者や親戚等に勧められたから」教育ガバナンスコースを志望したと回答した者が、2020 年度はこれまでと比べて大きく増加していることが挙げられる（図 11）。教育ガバナンスコースは 2017 年度に開設されたばかりの新しいコースであり、また課程やコースの名称としても「教育支援専門職」や「教育ガバナンス」といった耳慣れない単語を使用しており、一般の人たちからは教育ガバナンスコースでは何を学ぶことができるのか分からないと思われがちである。しかし 2017 年度・2018 年度と比較して 2020 年度では「保護者や親戚等から勧められ」て教育ガバナンスコースを志望した者が増加したということは、進路指導を毎年行っている高校教員以外の一般の人たちにも教育ガバナンスコースが少しずつ浸透してきていると考える余地はあるように思われる。この点については、来年度以降のアンケート結果も注視していく必要がある。

5．終わりに

本稿は、教育ガバナンスコースに 2017 年度・2018 年度・2020 年度に入学した学生に対して実施したアンケート調査を分析し、学生の意識や今後の教育ガバナンスコース運営にあたり配慮すべき点について検討を行なった。2019 年度生に対してはアンケート調査を実施することが叶わなかったため、2017 年度の新設から 2020 年度に完成年度を迎えるまでの全ての入学生を対象とした分析を行うことはできなかったが、今後も継続して調査を実施し、その結果を教育ガバナンスコースの教育に還元していきたいと考える。